

啐啄

平成27年1月1日発行
編集・発行 大島町教育委員会
教育文化課事務局
TEL 04992-2-1453
題字「井島 吉春」

未知との遭遇

教育委員長 白井 良平

少し前の話になりますが、平成26年10月26日に、土砂災害から1周年を迎えての『大島町台風二十六号土砂災害追悼式』が挙行され、この台風で亡くなった36名の方々と、未だ行方不明の3名の方々への哀惜の念を共有するとともに、復興・復旧への誓いが表明されました。大島で暮らす人々は、常に自然災害(噴火・地震・台風等々)の危険性を感じ、それに対応する心構えと物理的な準備が必要だということを、再認識させられた一日にもなりました。

さて、島の自然といえば災害とは逆に、多彩な動植物に恵まれ、私たちの生活に変化と刺激を与えてくれたり、五感を楽しませてくれたりと切っても切れない大切な関係にあるのも、ご存じのとおりです。そんな大島で生まれ育った私ですが、64年目にして初めて「今まで、見たことも聞いたこともない自然」に出くわしました。それは10月の初旬に、ある保育園を訪問した時のことです。玄関に迎えに出て下さった園長先生が、「白井先生、今、シマヘビが見つかって、園児たちに何かあると心配なので職員で頭を潰して殺したところです。」と教えて下さいました。

「シマヘビって、あの茶色のおとなしい蛇ですか？」と訊く私に「いえ、ちゃんと胴体にシマがありましてから。」「…?」「見ますか?」「はい、是非見せて下さい。」大きさは小型のマムシぐらい。確かにシマはありますが、頭から尻尾にかけての縦シマではなく、竹の節のような輪になっている、

黒くて太い横シマが何本もついているのです。見たこともない蛇なので、「島外から入ってきた外来種じゃないかなあ…?」などと言いながら、「よかったら持ち帰って調べたいのですが。」とお願いし、ペットボトルに入れてもらっていただきました。

さっそくインターネットで検索してみると、『シロマダラ』という種類の蛇で、生息域の欄に「伊豆大島」と載っていました。子供の頃から、メジロだ、山芋だ、雪だといったは仲間と野山を駆けまわって遊んでいた自分ですが、この蛇の存在は私の知識や経験には全くないものでした。理科系の校長先生に電話してみると、聞いたことはあるが見たことはないの、是非いただきたいと言われ、ホルマリン漬けにでもして下さいとお届けしました。



【シロマダラ】

しばらく経ってから、我が家に来ている泉津の青年にその話をすると、次に来た時「それは、私の父たちが大島公園関係の仕事をしている時に、調査を求められて捕獲し、送ったことから大島に生息していることが証明されたそうです。」と教えてくれました。幸い、マムシのような猛毒をもっているわけでもなく、滅多に人目につかない生態だということが分かって一安心しましたが、この歳になっても、こんな大きな遭遇に恵まれたという現実、驚きと小さな感動を覚えた出来事でした。

このように、蛇の種類一つにしても、知らなかった人がたくさんいると思うのですが、「知っている人が、知っていることを、後世に残すために記録しておく」という作業を何処かで誰かが進めていかないと、大島にある大切なものが失われていくような気がしてなりません。お祭り、伝説、職人による技、民謡、踊り…。大島町教育委員会でも微力ながら努力はしているのですが、もっともっと組織的な取り組みが必要だと感じています。そのためのご意見やご協力をいただくと、ありがたいと思います。

仕事着姿

教育委員長職務代理者 井島 吉春

ある日ある所で「こんにちは」と声をかけられたが相手が誰だかすぐには出てこない。歳と共に頭の回転が鈍くなるのは仕方のないことだが、あちら様は私のことをよく知っているようだし、取りあえず「こんにちは」と挨拶を返しこちらの胸中を悟られぬよう誤魔化した。しかし、相手は私の顔色を察したのか「私、〇〇です」と職業を言ってくれたので「ああ、〇〇の△△さんですね、いつもの格好と違うのでわからなかったです。」と言い、お互い笑い合った。又、その昔学生時代にも自転車に乗っている人と道ですれ違った時、どこかで見たことがある人だけど誰だったかなあ何だか物が喉につかえた様な気分でその場が過ぎ、後日食事処で板前姿のその人を見て、ああ、そうだったのかとようやくつかえていた物が通った様に、すっきりしたこともあった。私の頭の中では、この人達は常にそれぞれの仕事着姿で、てきぱき仕事をこなす人々の役に立っている印象がもの凄く強く、会った時の服の姿は到底想像できない。

世の中にはありとあらゆる職業があり、警察官、郵便局員、宅配便の人、スポーツ選手、料理人、教師、スーツ姿の各職業など数えきれない程ある。職種により服装が違うのは当たり前だが、その人にとって本業の姿

で働いている時がやっぱり一番カッコイイと思う。

もう三十数年前になるが頭をまるめて初めて寺の修行に出た時、衣の着方でかなり厳しく指導を受けた。常に身なりをきちんとしていないとすぐに古参（先輩）から呼び出されカミナリを落とされた。そうは言っても着物（法衣）など今まで着て生活したことなどないのだから襟元なんかすぐにぐちゃぐちゃになり、帯などもそのうち外れてしまう。衣や袈裟は特殊なもので入門したての頃は、本当に酷い格好で修行していたのだと思う。

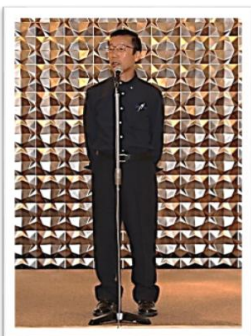
そんなある日、二つ上の先輩が諭すように話してくれた。「お前達は今ものすごく衣の着方が下手でカッコワルイ。公式の場にはとても出て行けない。しかし修行が進むにつれ段々と衣が自分自身にピタッときまってくるはずだ。衣を上手く着こなしていないのは、修行が未熟だからだ。」当時はそんなものかと、ただただ月日が通り過ぎるのを耐え忍んでいただけだったが、今振り返ってみると、なるほどその通りだなあと深く感じるものがある。

人は必ずどんな仕事でもよいから職に就き社会の一員として生きてゆかねばならない。しかし、せっかく就職することが出来ても色々な都合から転職する者も多いと聞く。それどころか働くのを辞めそのままニートとかフリーター等と称し平気である者も沢山いる様だ。ニート、フリーターと横文字で表したところで無職にすぎない。一般に子供達は地域や学校で多くのことを学び将来の夢や希望、なりたいもの等を心に浮かべながら成長してゆくのだろうが、島の中では残念ながら人も職種も限られており、憧れの職業や人物と出会う機会も極めて少ない。この小さな島の中で私達大人が出来た事は精一杯働く姿を見せ、働く喜び、働く意義を感じ取ってもらい、必ず何らかの仕事に就き自立してくれる事を切に願う。どんなに立派な学歴があろうと無職では情けない。国が悪い、社会が悪いなどという言い訳はむなし過ぎる。仕事着姿が一番カッコイイ大人になって欲しい。

同級生

教育委員 藤田 月

前任者の残任期間ということで受けたはずの教育委員でしたが平成26年9月から、改めて委員に任命されることとなりました。引き続きご指導いただきますようによろしく願いいたします。



【開会の挨拶】

3か月前に大島第三中学校25期生の同窓会を16年ぶりに開催いたしました。その夜に大島に帰る人、宿泊をしたい人の事なども考え、竹芝のホテルアジュールでやることとなりました。参加人数は、当初40名を越えそうでしたが仕事の事情、家庭の事情等の理由でどうしても参加できないという人もでてきましたが、それでも恩師も含め30名程集まることができました。亡くなられた人が4名、住所が分らない人が7名いますが私たちの学年はA組、B組、C組と三中最後の一学年3クラスの年代で89名おり、全校でも250名近い人数だったと思います。現在は、一中84名、二中56名、三中49名と島の事情を知らない同級生はビックリしておりました。中学卒業以来という人もいて、当然一次会では終わらず、二次会三次会へと夜は更けていきました。小学校から中学、高校と12年間も共に同じ学校に通った同級生もいれば、中学生活のたった3年間しか付き合いのない人もいるのに何であんなに酒の勢いもあるが話が盛り上がる

のだろうか？学校以外での交流も多かった様な気がします。試験週間になれば誰かの家に集まって一緒に勉強したり、クラブ活動や先生の家にお邪魔したり、共有した時間がすごく多かったような気がします親や兄弟姉妹とは違う関係、中学、高校は感受性の強い時期又、島という地域環境もあるかもしれない。

年に何回か私が上京するからと連絡すると、4、5人飲み会に顔を出してくれる連中がいるのだが遠慮なく話ができる。同級生とは不思議な存在である。学校という教育の場があったという事実は間違いないと思うのだが。



【恩師の演奏で校歌を歌う】

あれから8ヵ月を経て

教育委員 岡山 日出子

新年あけましておめでとうございます。今年も心安らぐ一年になりますようお祈りしています。

昨年は台風災害から一年が経ち、各所で慰霊祭や式典が催されました。遺族や関係者の方にとってはまだまだかもしれませんが、一応一区切りということでしょうか。

私も教育委員を拝命し早や一年、色々な行事の案内をいただくようになりました。この秋は体育祭や発表会で保護者当時を思い出し、懐かしいようなドキドキするようなそんな気持ちで観覧させていただきました。授業や部活動の忙しい中、生徒・児童と先生方が創りあげたそれらは、皆の一生懸命さが伝わり、目が離せなくなるも

のでした。

しかし、このような全体行事は、子どもの人数が減少しつつある現状では、一人がいくつもの役割分担をこなさなければ成り立たないのではと想像します。大島では当たり前のことかもしれませんが、とても大変で凄いとだと思います。大人数の学校だと、出番の少ない人では一つあるかどうか、係もなければ応援だけの生徒もいるそうです。そんな状況で、大島の子どもたちのような充実感や達成感が得られるのでしょうか。

子どもたちは成長とともに世界を広げていくでしょうが、是非ここで培った積極性や協調性を大切にしたいと思いました。

新年、年の初めに皆様は何かを思い願ったのでしょうか。現実には思い通りにならないことも多いですが、改めて「今年こそは」という気持ちを持ついい機会なのかもしれません。

平成二七年度新年のご挨拶に代えて

教育長 石川 龍治

皆様、あけましておめでとうございます。

今年が皆様にとってよき年となることをお祈りいたします。災害からの復興計画もいよいよ本格的に動き出しました。決して忘れ得ぬとの思いは抱きつつではありますが、私たちの周りにある日常を早く軌道に乗せるべく、皆で力を合わせ取り組んでゆきたいと思えます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律は、二十七年度から施行されます。ご承知のとおり教育委員会の制度が変わります。簡単にまとめると、「教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を計るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図る。」ということになります。

ただし、子どものおかれた環境や、学校現場に直ちに影響や、変化が伴うということは無いだろうと考えております。

平成十七年の小学校の統廃合に伴い新たにスタートした、「さくら小学校」と「つばき小学校」が創立一〇周年を迎えます。早いものであの地域を挙げた適正規模適正配置の意思確認からもうそんなに経ったのかという思いです。当時の予想を大きく外れたのは、さくら小と二中の児童生徒の多さです。ここ数年のデータで見るとこの傾向はしばらく続きそうです。「つつじ小学校」も含め統合後の、学校運営にはさぞ色々な面での配慮気配りがなされての今日かと思えます。今落ち着いて伸びやかに子供たちが通学し学校生活を送ることが出来るのも、学校現場の先生方をはじめ、地域の方や保護者そして児童生徒の連携した取り組みの賜物と感謝し、敬意を表します。

大島町立小・中学校教育研究会社会化部会の「地域の史跡見学会」は、今年度十一月三十日に五十名参加者のもと実施されました。大島には数多くの史跡があります。大島支庁により「大島の史跡」としてまとめられています。また大変多くの文人墨客が訪れその足跡を残しています。藤井工房のホームページからも調べることが出来ます。また、藤井工房の協力を得てデータ化する作業を委託中です。複数年かかる見込みですが作業は進行中ですのでご期待いただきたいと思います。

大島伝統コラム

正月の門松はどこへ？

お正月のシンボルといえば「門松」というのが全国の新年を迎える行事の代表ですが、その姿も昨今ではすっかり見られなくなりました。都内の所謂大企業といわれる会社の玄関で時折見られる程度ではないでしょうか。

大島の「門松」は都内で見られるそれとはやや趣きが違っており、門松とはいえ松を使わない門松でしたが、それも今はまったく見ることは無くなりました。5～6前までは郷土資料館で見ることができましたが……。その特長は松の代わりに榊を使用することで、これは資源保護的な観点と榊が大島に豊富なこと、榊という木の使用目的から用いられるようになったと思われる。オオヤ（母屋）の前に3～4m前後のできるだけ素性の良い（真っ直ぐな）榊を山から切り出し、同じ長さ位の江戸竹（今年竹・コトシダケを使う）を合わせてカドグイ（杭）に抱かせ、それに横渡しのシノダケを括り付け、その中心に別に稲藁（海水で清める）、ウラジロ（裏白）ユズリハ（譲り葉）、ダイダイ（橙）、麻で手作りしたお飾りを縛りつける。（これと同じお飾りを神棚にも飾る）。根元には新しく切ったサイワイギ（幸い木・薪）を反割りにして割り面を外に向けて注連縄（荒縄）で結わい絞め、榊の小枝に自作の輪飾りを付ければ完成となる。（主に元町地区の例）

現在の門松は紙に印刷されたものが各戸に配布され手軽に新年を迎えることができますが、門松一つにも昔の人々の「新しい年を迎える」ことに対する思いというのは現代の我々とはどこか違う気がしてなりません。



【郷土資料館・正月飾り】

つばき小学校は、今年度、東京都の言語能力向上拠点校推進事業に応募し、思考・判断・表現力の育成を目指し「言語活動の充実」を図る授業研究や校内での取組を始めました。今回は、その取組の一つである『つばき小 大喜利』を紹介します。

月に2回程度、朝学習の時間を活用し、「お題」について、自分の考えを言葉で分かるように表現する取組です。書いたものは、各学級で掲示したり、昼の放送で発表したりしています。自分の考えを文章化し他の人に見たり、言葉で伝えたりすることを前提とした活動です。こうした取組を継続することで、表現に対しての抵抗感を減らし、言葉を使って考えることを楽しめるようになってほしいと思っています。

きょう だい
今日のお題
これで、私わたしもノーベル賞しょうだ！
ついに、あの発明はつめいが完成かんせいしてしま
った！さて、どんな発明はつめい？
※朝学習の時間あさがくしゅうのじかんに、自分おれの考えかんがえを書きましよう！



《『小中合同運動会』応援合戦より》
台風が接近し、急な前日開催となりましたが、多くの方々からひたむきな子どもたちの姿に、大きな声援を送り続けていただいた忘れられない一日となりました！感謝の気持ちで一杯です。

さくら小学校は、素晴らしい学校です！

さくら小学校は、今年度から『子どもたちの素晴らしいところを見つけて、思いっきりほめてあげる』ことを学校で実践するだけではなく、保護者・地域の方々にもお願いしてきました。子どもを育てる大人の視点が変われば、子どもの成長が加速していくと考えたからです。

学校には、「子どもが漢字テストで嘆いていたら、クラスメイトの男の子が『大丈夫、次があるからドンマイ』と声を掛けてくれた。」「素晴らしい時間を過ごさせていただき、子どもたちの一生懸命の姿を見て、私も一生懸命あつく！生きたい。」等々、涙なしでは読めないような温かいお言葉が寄せられます。さくら小学校の子どもたち、保護者、地域の方々、教職員は、私の誇りです！

（さくら小学校校長 宇山 幸宏）

「共に学び合い 磨き合い 支え合う学校」を目指して
つつじ小学校

教育目標

○思いやりのある子 ○たくましい子 ◎自ら考える子

●特色ある学習活動

- ・担任と副担任の協働を柱とした全教員による指導体制の充実
- ・独自開発教材「学びのてびき書」を活用した授業実践
- ・朝読書の励行、朝学習の充実
- ・学力向上家庭学習の継続、東京ベーシックドリルの活用
- ・夏季サマースクール、放課後マナビースクールの実施

●各種行事の充実

- ・春の1年生歓迎全校遠足（波浮港コース・岳の平コース）
- ・下学年自然体験教室、4・5年合同キャンプ、6年移動教室
- ・秋の校外学習（大島公園、パームライン、三原山自然探索など）
- ・小中合同運動会、学芸会、音楽会、小中合同作品展

●生活指導の重点

- ・返事やあいさつをきちんとしよう
- ・相手の気持ちを考えて行動しよう
- ・何事も進んで行動しよう



【春の全校遠足：トウシキ園地】

第一中学校は本年度東京都より「言語能力向上拠点校」と「オリンピック教育推進校」の指定を受けており、各分野の専門家から直接学ぶ活動を行っています。前者では俳人夏井いつき先生による「句会ライブ」の実施、後者では全日本学生選手権2連覇の東海大学バスケットボール部の選手による、実技指導を計画しています。

その他にも、ストリートダンスの指導員による体幹からの身体作りとリズム講習会、車いすテニスの金メダリストによる講演会と車いすでのテニスの実技指導を受けました。

このように、様々な専門家から直接指導を受けることによって文化面でも運動面でも生徒の可能性を広げていきたいと思っています。



【夏井いつき先生】



【車いすテニスの講習会】

本校の特色ある教育活動「地域研究発表会」

第二中学校



11月22日（土）第32回地域研究発表会が行われ、”大島の心 未来へつなげ”をスローガンに11班の班が一つのテーマに沿って研究してきた内容を発表しました。研究テーマは1年生が「大島の祭」「大島の温泉」「大島の沢と災害」「大島の昔の生活」、2年生が「大島の動物」「大島の橋」「大島と再生可能エネルギー」「大島の農業」、3年生が「大島の素潜り漁」「大島の学校教育」「大島の木の实」です。それぞれの班が大島の自然・歴史・産業・文化などについて興味・関心や疑問に思う事を班という仲間とともに、体験的な活動を中心に学習しました。調査・研究を通して課題解決能力や科学的思考力、そして、表現力を育てることができ、郷土に対する理解と愛着心や誇りを深めることができました。

小中9年間の継続

第三中学校

本校では、つつじ小学校と連携した9年間の指導の一貫として、毎年、劇と音楽の発表をしています。今年も保護者・地域の方からたくさんの感想が寄せられました。

- 全校生徒49名、人数は関係ないですね。
- 「YELL」「花は咲く」は、生徒たちの願いが歌声に乗せられ、心に響きました。
- きちんと音程がとれていて、透明感がある歌声でした。聞いていて、感動し涙が出てきました。
- 3年生、集大成の劇ができましたね。演じることを深く追求している様子が伺えました。
- 小学校時代から劇を演じ続けてきた9年間、地域の方々に見守られる中、堂々と立派に演じきり、さすが3年生でした。



教育委員会カレンダー（1月～3月）

月	日	内容	場所
1	10	成人式	開発総合センター
	16～20	大島町小中学校連合作品展	大島町立つばき小学校体育館
2	7	大島町体育祭野球大会（小学生の部）	差木地地域センターグラウンド
	22	大島町文化祭（芸能大会の部）	開発総合センター
3	6～8	大島町文化祭（作品展の部）	開発総合センター

事務局からのお知らせ

学校教育係	社会教育係
<p>○昨年12月9日（火）に第一中学校体育館で「第29回大島町小中学校連合音楽祭」が開催されました。</p>  <p>○1月16日（金）～20日（火）にかけて大島町小中学校連合作品展をつばき小学校体育館において開催いたしますので、ぜひお越しください。</p>	<p>11月30日（日）に大島町教育研究会主催の史跡見学会「岡田地区」（第2回）に出席しました。</p> <p>今年は岡田地区の山方で、大久保遺跡、福聚寺、岡田墓地、風早崎灯台、乳ヶ崎源為朝古戦場跡などを巡ってきました。</p>  <p style="text-align: right;">【岡田墓地】</p>
給食センター係	図書館
<p>給食センターでは、平成27年4月を目途に学校給食の調理・配送等の一部を専門の業者へ業務委託する方向で準備を進めております。教育長を委員長とした全11名構成による調理等業務委託業者選定委員会において協議を重ね、10月には第一次（書類）審査と、第二次（プレゼンテーション）審査を行い業者が決定しました。今後のスケジュールとしては、町議会に報告した後、受託予定業者と業務内容等を確認・調整した上で、4月の調理業務開始に向けより具体的に動き出す予定です。詳しくは町の公式HPをご覧ください。</p> 	<p>11月1日（土）に社会福祉協議会主催の福祉まつりに移動図書館車「ひまわり号」が参加しました。本の貸出と除籍本のバザーを実施しました。</p> <p>段ボール1箱分買って下さる方などがいて大変な賑わいでした。</p> <p>売上金は本の購入費などに充てさせていただきます。</p> <p>また、ひまわり号ではボランティアの募集をしております。内容は本の貸出作業、車の運転（普通免許運転できます）、本の登録作業等で第1・3・4土曜日に運行しています。興味のある方はひまわり号事務局（大島図書館）までご連絡下さい。</p> <p>☎04992-2-2392（月曜休館日）</p>  <p style="text-align: right;">【古本バザー】</p>